

研究室紹介

宮崎県衛生環境研究所 環境科学部 大気グループ

宮崎県衛生環境研究所は、平成2年に衛生研究所と公害センターが統合し、宮崎市学園木花台の新庁舎に移転して発足しました。企画管理課、微生物部、衛生化学部、環境科学部の1課3部で構成されており、大気グループは環境科学部に属します。当グループでは、大気中のガス、粒子、酸性雨などの調査研究や事業場への立入測定等の業務を行っています。

大気環境調査では、県内14箇所にある測定局において、光化学オキシダントや硫黄酸化物、微小粒子状物質などを常時測定してテレメータシステムにより監視している他、移動監視車による測定も行っています。測定した結果はホームページ(みやざきの空 <http://www.miyazaki-taiki.jp/taiki/>)により公開しており、県民の方もリアルタイムで県内の大気汚染の状況を確認することができます。

平成23年1月には霧島山(新燃岳)で大規模な噴火が発生し、火山活動が活発な状態になったため、測定局を増設するなど監視体制を強化してその影響を調査しているところです。

酸性雨調査では、研究所の屋上で湿性沈着調査及び乾性沈着調査を行っている他、県の西部に位置するえびの市には国設酸性雨測定所があり、環境省からの委託を受け、湿性沈着のモニタリングを行っています。

事業場への立入測定では、ばい煙発生施設や揮発性有機化合物排出施設を対象に職員自らが煙突に登って、排出ガスの測定を行っています。

その他、当研究所では、学生や一般の方々を対象にした所内施設の見学や実習、インターンシップの学生受け入れなども行い、研究所の業務に触れる機会を設けています。

また、宮崎県独自の課題として口蹄疫に係る家畜埋却処分後の環境対策があります。宮崎県では平成22年4月に口蹄疫が発生し、約30万頭という多くの家畜が埋却処分されました。当研究所では埋却地周辺における環境調査(悪臭、湧水、地下水等)を行っており、大気グループでは平成22~23年度に環境省から委託を受け、埋却地における悪臭調査を実施しました。この調査では埋却地においてアンモニアや硫化水素などの特定悪臭物質の測定や嗅覚測定法(三点比較式臭袋法)による臭気指数の測定等を行いました。

昨今の地方環境研究所を取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、酸性雨や光化学オキシダントなどの広域的なテーマから口蹄疫や霧島山(新燃岳)に係る周辺環境調査などの宮崎特有のテーマまで少ない人数で協力しながら取り組んでいます。これからも県民の安全・安心な暮らしを守るため、職員一丸となって業務に取り組んでいきたいと思っております。

(環境科学部 中村雅和)



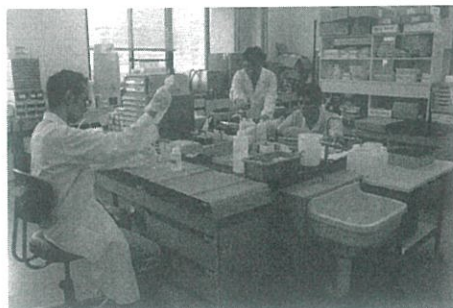
宮崎県衛生環境研究所



大気汚染常時監視テレメータシステム



移動監視車による霧島山(新燃岳)の周辺環境調査



大気試験室



嗅覚測定法による臭気指数の測定